

平成26年秋号 Vol.9

<発行・編集>喜多方市立図書館
 指定管理者 株式会社 図書館流通センター
 〒966-0822 喜多方市字柳原7503-1
 TEL:0241-22-1855



ききみみずきん

●<http://tosyokan.city.kitakata.fukushima.jp/>

10月～12月の図書館スケジュール 平日9:30～19:00 土日祝日9:30～17:30

10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1/1	1/2	1/3

- 休館日 (※12月28(日)～1月3日(土)は年末年始休館になります)
- おはなしドライブ(11:00～11:30)
- ユニットおりがみ教室(10:00～11:30)
- 着物で着飾った近代児童文学(終日開催)
- ちっちゃなおはなしかい(11:00～11:20)
- 生け花講座(10:30～11:30)
- 第5回 鉄道展(終日開催)
- ★各種催し物

図書館から催し物のご案内



着物で着飾った近代児童文学

開催期間:平成26年10月18日(土)～11月9日(日)

場所:喜多方市立図書館 1階 玄関ロビー

2014年読書週間の標語は、「めくるめぐる本の世界」。この読書週間期間内に、近代児童文学の数々の復刻本と、その1冊1冊にあわせて選んだ布地で作ったブックカバーを展示いたします。

<ブックトークの開催>

平成26年11月1日(土) 13:30～15:00

喜多方市立図書館 2階 第二閲覧室

『カチカチ山と花咲翁』武者小路実篤 / 著 岸田劉生 / 画
 大正6年阿蘭陀書房 / 発行 昭和47年ほるぷ出版 / 復刻



第5回 鉄道展

開催期間:平成26年11月26日(水)～12月14日(日)

場所:喜多方市立図書館 1階 玄関ロビー

毎年好評いただいている鉄道展。今年も、磐越西線全線開通100年を迎え、歴史を感じられる写真や資料の展示をおこないます。また、電車の模型(Nゲージ)の展示も合わせておこないます。どうぞお楽しみに!



<昨年度の展示風景>

読みきかせ応援講習会

日時:平成26年11月8日(土) 13:30～15:00

場所:喜多方市立図書館 2階 第二閲覧室

対象: 集団へ読み聞かせを実施している先生やボランティアの方、またはこれから読み聞かせボランティアを始めたい方

定員: 20名(申込期間10/1～)

福島県立図書館より講師をお迎えし、読み聞かせ講座を開催いたします。普段感じている疑問、読み聞かせのコツなどを教えていただける、またとない機会です。

第5回 利用者懇談会

日時:平成26年12月6日(土) 13:30～15:00

場所:喜多方市立図書館 2階 第二閲覧室

対象:どなたでも 定員:15名(申込期間11/15～)

図書館をより利用し易くするため、市民の皆様からご意見を頂戴する利用者懇談会を開催いたします。皆様の生の声をお聞かせ下さい。

特集 喜多方美術倶楽部からせびろまの夢へ

喜多方市美術館で昨年度より始まった展覧会「せびろまの夢」。岡山県倉敷市の大原美術館のご協力により、4年間にわたり、セザンヌ、ピカソ、ロダン、マティスの作品が喜多方にやってくるという企画です。この展覧会が実現するまでには、喜多方における美術愛好家たちの長い歴史がありました。

喜多方美術倶楽部の結成

大正時代に山都村の素封家・田代蘇陽(本名:與三久)によって設立された、美術愛好家の親睦団体です。大正7年(1918)に結成されました。田代は戦前の県の経済界に重きをなした人物で、美術愛好家として中央の画人・文人を山都の自邸や別荘・南山荘に招き、滞在させ、作品の制作を助けてきました。田代と交遊のあった人物として、画家の小川芋銭、酒井三良、俳人の河東碧梧桐らが挙げられます。

喜多方美術倶楽部は喜多方町に美術館を建設すること、来遊する美術家を手厚くもてなすこと、来遊画家の画会や美術展覧会を主催し、地方における芸術趣味の普及を図ることなどを目的に活動し、当時の喜多方の商人たちが集いました。彼らはまた、今年全線開通100年を迎える磐越西線の前身・岩越鉄道の敷設に尽力した人々でもあります。会津に新しい文化の風を呼び込みました。

「セピロマ会」の誕生

第二次世界大戦後間もない昭和21年(1946)に、佐藤恒三が発足させた美術振興のための団体です。昭和25年(1950)の喜多方町勢要覧には、「主なる文化団体」の項に「セピロマ会」の名前がみられます。事業内容として「洋画の研究とその振興を図る」を掲げ、会員数は25名でした。

佐藤恒三は明治37年(1904)、喜多方美術倶楽部の会員であった佐藤彌右衛門の三男として生まれ、東京美術学校彫刻科へ進学、卒業後帰郷し彫刻・絵画制作と俳句に親しみました。会の名前、「セピロマ」とは、セザンヌ、ピカソ、ロダン、マティスそれぞれの頭文字をとって組み合わせたものであり、いずれも近代美術の大家です。この会は、いつかこれらの作家たちの作品を喜多方で見ることを夢見て活動していたようです。美術展「せびろまの夢」は、長い時を経てこの夢がかなったものと言えるでしょう。

大原美術館とは？

岡山県倉敷市の実業家・大原孫三郎が創立した、近現代美術のコレクションを中心とした美術館です。大原家では児島虎次郎という画家を援助していましたが、年の近い大原孫三郎と児島虎次郎の関係は、単なる支援者-被支援者の関係を越えて深い友情で結ばれていました。児島は昭和4年(1929)に47歳の若さで亡くなりますが、その短い生涯のうち3度渡欧し、「広く日本の芸術界のために」と当時の西欧美術の優れた作品を買い集め、画家としての確かな目に裏打ちされた良質なコレクションを創り上げます。友の死を悼んだ大原孫三郎は、児島が集めた西欧の作品と児島自身の作品を常時公開するために、昭和5年(1930)、大原美術館を設立しました。これは西洋近代美術を展示する日本で初めての美術館でした。

大原孫三郎は昭和18年(1943)にこの世を去りますが、美術館は2代大原總一郎を経て現理事長大原大原謙一郎氏へと受け継がれました。2002年に高階秀爾館長を迎えた現在の大原美術館は、蓄積されたコレクションの再評価の一方、「現代を生きるアーティストの紹介と支援」を掲げ、平成17年(2005)より「ARKO(Artist in Residence Kurashiki, Okayama)」と題した活動を行っています。これは今も残る児島虎次郎のアトリエに若手アーティストを招き、滞在中の倉敷の印象を作品として残してもらうというものです。昨年の「せびろまの夢」会期中喜多方に滞在し、作品制作を行った花澤武夫氏もこのプログラムの経験者でした。

大原美術館 外観



そして「せびろまの夢」へ

大原美術館を育んだ岡山県倉敷市は、喜多方と同様に蔵の街として知られ、また町衆の活動が街の文化の中心を担ってきました。そういった御縁からこの度ご協力を頂き、セピロマ会の名前の元となったセザンヌ、ピカソ、ロダン、マティスの作品を一作家ずつ四年間にわたって展示することとなりました。今年はピカソの作品5点が喜多方にやってきます。また美術作家・北城貴子氏が喜多方に滞在し、制作した作品も併せて展示されます。

せびろまの夢 ぴはピカソのピ展 会期 2014年11月8日(土)ー11月24日(祝) 会場 喜多方市美術館

【参考文献】

『山都町史 2』 山都町史編纂委員会 山都町 1991 (L216 ヤ 2)

『喜多方市史 10 文化 各論編Ⅲ』 喜多方市史編纂委員会 喜多方市 (L216 キ 10)

『ふくしま近代美術の舞台』 増淵鏡子 歴史春秋出版 2012 (L091 レ)

『大原美術館で学ぶ美術入門』 大原美術館(監修) JTBパブリッシング 2006 (702 オ)

おすすめ図書ラインナップ！

毎週木曜日に新しい本が入ります
お楽しみに！



『ぼくらは怪談巡礼団』
東 雅夫・加門 七海／著
KADOKAWA 2014・6 (915) ヒ



文芸評論家・東雅夫と作家・加門七海が、日本各地に残る怪談の舞台を訪ねて東へ西へ。鏡花の金沢で、遠野の宿で、一行を待ち受ける怪奇現象の数々。怪談紀行にして名作ガイドでもある、かつてないトラベル・ブック。東雅夫氏が編集長を務める怪談専門誌『幽』での連載を単行本化。



『武井武雄 イルフの王様』
イルフ童画館／編著
河出書房新社
2014・5 (726 タ)

大正児童文化の精華「コドモノクニ」等の雑誌で挿絵を手がけた童画家・武井武雄。彼はまた、版画、刊本作品、創作玩具、蔵書票など、子どもの本の世界にとどまらない作品を生み出し続けました。作品をジャンル別に紹介しながら、新しさとユーモアに満ちた武井の芸術世界を探ります。

『ひみつの王国
評伝石井桃子』
尾崎 真理子／著
新潮社 2014・6 (910 オ)



幼いころ読んだ本に、一度はその名を見かけたことのある人、石井桃子さん。初めての本格評伝です。菊池寛に編集を学び、太宰治に恋され、「プーさん」を訳し、「ノンちゃん」を生み出した児童文学の巨星。200時間におよぶインタビューと膨大な書簡を元に、仕事、生活、戦争秘話など、101年の稀有な生涯を描きます。

- こちらもおすすめ！**
- * 『ずるずるラーメン』 (L914 ズ) 荒木 経惟ほか／著 2014・6
 - * 『ソボちゃんーいちばん好きな人のことー』 (914 ア) 有吉 玉青／著 平凡社 2014・5
 - * 『猟師の肉は腐らない』 (659 コ) 小泉 武夫／著 新潮社 2014・7
 - * 『乳しぼり娘とゴミの丘のおとぎ噺』 (929 テ) ラティフェ・テキン／著 河出書房新社 2014・7
 - * 『林ことみの刺し子ノート』 (594 ハ) 林ことみ／著 筑摩書房 2014・7

新着DVDおすすめラインナップ！



福島県に関するDVD

- 『証言記録東日本大震災』 (D369-シ)
2011年3月11日。あの日、あの瞬間、何があったのか。人々は何を考え、どう行動したのか。福島県内からは、南相馬市、大熊町、三春町、浪江町、葛尾村、飯館村、富岡町、相馬市の各市町村の住人の証言を記録しました。
- 『松川事件』【邦画】(D778-マ)
1949年、戦後間もなく福島市の松川駅付近で起こった列車脱線転覆事件を題材に、法廷劇をサスペンスに満ちた演出で映像化。1961年公開。
- 『喜びも悲しみも幾歳月』【邦画】(D778-ヨ)
家族の幸せを第一に、誠実に生きた灯台守夫婦の25年の物語。1957年の木下恵介監督作品です。いわき市の塩屋崎灯台でもロケが行われました。

その他のDVD

- 『鉄道ものしり図鑑 JR編』 (D536-テ)
- 『裸の大将放浪記』(D778-ハ)
- 『七人の侍』(D778-シ)
- 『ヒューゴの不思議な発明』(D778-ヒ)
- 『朝ヨガ』(D498-ア)
- 『NHK健康ストレッチング』(D781-エ)
- 『ヒックとドラゴン』(D778-ヒ)
- 『ウォーターボーイズ』(D778-ウ)



みなさんはグリーン・ツーリズムをご存じですか？

グリーン・ツーリズムとって思いつくのは、農業体験、農泊…。喜多方市のグリーン・ツーリズムの取り組みについて、喜多方市観光交流課グリーン・ツーリズム推進室山口室長にお話を伺いました。

——喜多方市がグリーン・ツーリズムを始めたのはいつからですか？

喜多方市では、平成15年(2003年)3月に日本全国の市として初めて「グリーン・ツーリズムのまち」宣言をし、取り組みを開始いたしました。市の基幹産業である“農業”の振興と活性化、豊かな自然を満喫していただき、地域の伝統や文化の継承・発展に務める事を目的としています。合併後、平成18年(2006年)6月に「グリーン・ツーリズムのまち」を新たに宣言しました。農業体験や交流を通し感動を共有し合い、心とこころを交流することを基本理念としています。

——農泊されるお客様の中には外国人の方もいらっしゃるのでは？

今年2月にはインドネシアの大学生、5月には東南アジアからの大学生と数多く外国からのお客様をお迎えしています。通訳の方が同行する場合や日本語を勉強しておられる学生の方もあれば、日本語を話せない方みの場合もありますが、農泊農家では特に問題はないそうです。言葉は通じなくても身振り手振り、気持ちで通じることができ、またそれが「アットホームなおもてなし」につながっているようです。まさに、“心とこころ”の交流といえると思います。農泊農家では、年に数回研修や視察など行っており、明るく前向きで温かな方ばかりですので心強い限りです。

——3・11震災後、原発事故による影響はありましたか？

教育旅行として、小・中学校を対象に農泊体験などのプランを勤めてきて徐々に増えつつある状況だったのが、2011年3月11日の震災を機に極端に交流人口が落ち込みました。原発の風評被害によるところが大きく、キャンセルが相次ぎました。平成22年度では55校9000人強の訪問がありましたが、平成23年度では12校949人と震災前の1割まで減少してしまいました。現在では震災前の約3割まで持ち直してきているところです。

——今後の取り組みについて教えてください。

外務省の青少年交流事業の一環で、外国の大学生との交流体験を行っています。また、友好都市協定を結んでいる東京都東大和市・千葉県香取市、その他にも東京都中野区との連携により、消費者の方に喜多方市へお越しいただき、食の安全モニターツアーを計画しています。現状を知っていただくために季節ごとに体験メニューを替え、一般の方や親子連れに参加いただいております。他にも、都内の催し物に農家の方々と出向き、食の安全をアピールしております。2013年11月14～16日に全国大会“第12回全国グリーン・ツーリズムネットワーク福島大会”が喜多方市で開催されました。県内のグリーン・ツーリズム復興に向けての取り組みを、風評被害払拭を目指し発信しているところです。尚、市内の実践団体を一元管理しているのが、NPO法人喜多方市グリーン・サポートセンターです。こちらが相談やコーディネート等の窓口になっております。

——ありがとうございました。

利用者アンケート実施のお知らせ

今年度も皆様からのアンケートを実施いたします。期間中、ご来館されたお客様にご協力をいただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

配布期間：10月1日(水)～10月26日(日)
(回収は11月9日(日)まで)

【編集後記】

*今年も「せびろまの夢」の季節がやってきました。美術館での会期に併せて、図書館でもピカソや大原美術館に関する本を集めた特集コーナーを設けます。こちらもどうぞご利用ください。(A・S)

*今回の取材で、私も農泊体験を試してみたくなりました。まさに「喜多方再発見」の思いです。取材を快く受け入れてくださいました山口グリーン・ツーリズム推進室長はじめ市役所観光交流課の皆様ありがとうございました。(K・S)

グリーン・ツーリズムのまち宣言

飯豊連峰、雄国連山の懷に抱かれ、四季の変化に富んだ豊かな自然と風土、そこに育まれた素晴らしい伝統と文化、農林業などの産業が調和した「喜び多きまち 喜多方」 私たち喜多方市民は、喜多方の良さを全国に発信し、訪れる方々との「心の交流」を理念として、主体性をもってグリーン・ツーリズムに取り組み、地域の伝統・文化の継承と発展に努めるとともに農業をはじめとする産業の振興を図るため、ここに「グリーン・ツーリズムのまち喜多方」を宣言します。

— 私たちは、都市との交流促進を図るため、地域資源の有効活用と市民による積極的な取り組みを推進します。

— 私たちは、自然との共生や環境保全に配慮し、田園と蔵のある風景、清らかさと癒しのある「心のふるさと」づくりを努めます。

— 私たちは、訪れる方々も市民自らも楽しめる交流を目指し、感動の共有に努めます。

平成十八年六月二十日

福島県喜多方市

(喜多方市観光交流課ホームページより)

【グリーン・ツーリズム】とは…

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動です。

(農林水産省ホームページより)

URL: <http://www.maff.go.jp/index.html>

【お問い合わせ】

○喜多方市 産業部 観光交流課
グリーン・ツーリズム推進室

TEL: 0241-24-5237

FAX: 0241-24-5284

E-mail: kankou-gt@city.kitakata.fukushima.jp

ONPO法人

喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンター

TEL: 0241-24-4488



図書館ここだけの話

あなたは、何の秋を楽しみますか？

私は、なんといっても読書の秋。図書館では、これからも催し物がたくさんあります。図書館は「知の宝庫」です。みなさんで、図書館をいただいたおしてください。(館長)